

第4部 高等学校におけるSDGsの視点からの学習活動の実践例

1 テーマ設定の理由

本研究では、高等学校におけるSDGsを取り入れた学習活動について、その意義と方法について考察する。SDGsとは、2030年までに持続可能な社会を実現するために国連が採択した17の目標と169のターゲットである。社会の創り手となる高校生が、SDGsの視点を持って学ぶことが重要である。本報告書では、高等学校教育においてSDGsの視点を持った、より効果的な学習指導について探る。

高等学校におけるSDGsを取り入れた学習活動とは、単に目標やターゲットを知ることではない。それよりも重要なことは、持続可能な社会の創り手として自ら考えて行動できるようになることである。そのためには、「持続可能な開発のための教育（ESD）」という考え方が参考になる。ESDとは、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育であり、持続可能な社会の作り手としての資質・能力を育成するための教育である。

SDGsとともに子供たちの生きる力をはぐくむために、教科等横断的な学習が必要である。しかし、現在までの高校教育では、教科ごとに分かれた指導が主流であった。また週1単位の総合的な探究の時間だけでは十分に活動時間を確保できないことが多い。そのような中でSDGsの視点を取り入れることで自ずと教科等横断的な学習が可能になる。

大学入試改革により、学力の三要素を多面的・総合的に評価する「総合型選抜」が重視されるようになってきている。SDGsの視点を取り入れた学習活動は高校生の確かな学力の三要素を涵養する上でも効果的である。

谷田川ら（2022）の調査によると高等学校におけるESDの実施状況は、積極的に取り組んでいる学校は5.5%にとどまっており、一方で「まったく取り組んでいない」学校は23.8%と全体の4分の1近くとなっていることから、日本の学校教育におけるESDの浸透状況はまだ十分とはいえない状況である。谷田川らはその要因として、教員に「時間がない」ために教員のESDの認知度が低いことを指摘している。

本部会の高等学校チームでは、SDGsを取り入れた学習活動を通して、**目標①**：地球的課題に対して関心を高め知識を身に付け、**目標②**：持続可能な社会の創り手として思考し、主体的に行動する力を養うことを目指していきたい。その際、学習活動としては、学校や教員の現状を踏まえ、ニーズに合わせた学習活動を提案していきたい。

目標①に対しては、教科教育においてSDGsを取り入れた学習活動を教科等横断的に実施し、**目標②**に対しては、総合的な探究の時間を核として**目標①**

で得た知識を自分の進路として昇華することを目指した実践を行った。令和5年に栃木県の高等学校に対して行ったアンケートを基にし、栃木県内でSDGsを取り入れた学習活動が十分に普及していない現状を踏まえ、まずは一人の教員から始められる実践とした。本報告書では、実践を踏まえ課題と展望を考察する。

2 実践①教科教育においてSDGsの視点を取り入れた学習活動

(1) テーマ設定の理由・地理探究について

平成21年3月告示の学習指導要領では地理歴史科において、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されていた。

平成30年3月告示学習指導要領地理歴史科では単に知識・技能を覚えさせるだけでなく、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）による活用を通して、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性まで育成することが目指されている。従来学習指導要領でも、作業学習を通じて思考力などを育成することを目指してきた。

平成30年度告示の高等学校学習指導要領の改訂では、持続可能な社会の創り手の育成という理念が明確に打ち出され、SDGsとの関連が強化された。現行の学習指導要領では、共通必修科目として「地理総合」、選択科目として「地理探究」が創設された。

「持続可能な社会づくり」という観点は、国際地理学連合・地理教育委員会が行った持続可能な開発のための教育（ESD）としての地理教育推進に関わる「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言（2007）」によって裏付けられるように、地理教育の中心的課題でもある。

「地理総合」の内容は図1のようになり、大項目「B 国際理解や国際協力」や大項目「C 持続可能な地域づくりと私たち」の学習においても、ESD（「持続可能な社会づくり」の観点）はその中核をなすものとされている。大項目C内の中項目「生活圏の調査と地域の展望」は、地域が抱える課題を抽出し、地域の特徴を踏まえた解決策を探ることを狙いとしており、ESDの流れを受けた、持続可能な社会の作り手としての資質・能力を育成するための単元である。

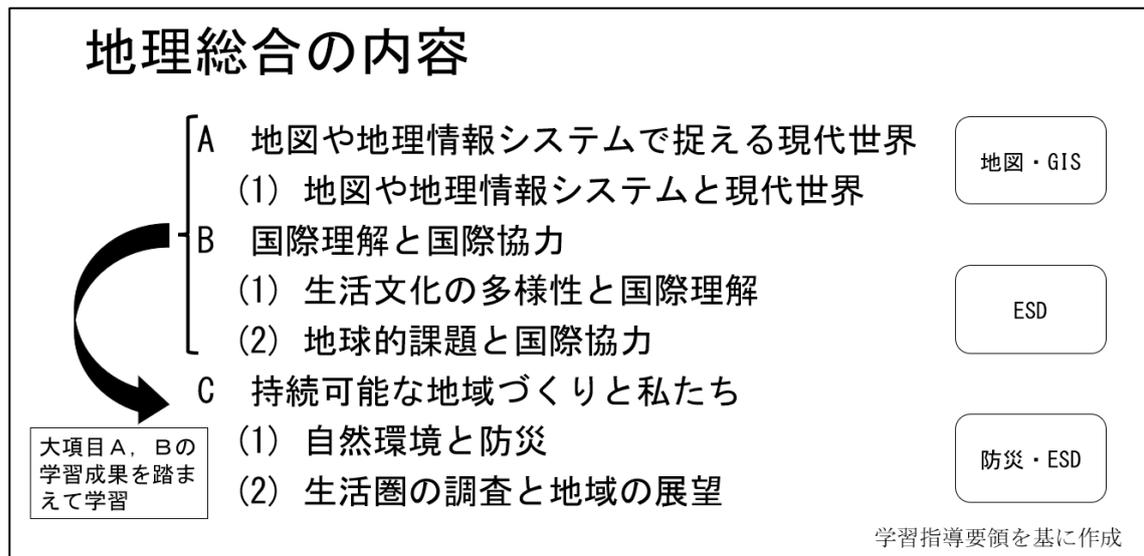


図1 地理総合の内容（学習指導要領を基に作成）

そのような必修である「地理総合」で身に付けた地理の基礎知識に基づき、より深い理解と課題の探究を目指すものとして地理探究が設置された。この地理探究では図2のように、これまで地理において中心的分野であった「系統地理的考察」と「地誌的考察」が、「持続可能な国土像の探究」を図る上での前提と位置付けられており、大項目「現代世界におけるこれからの日本の国土像」が中心として設定された。

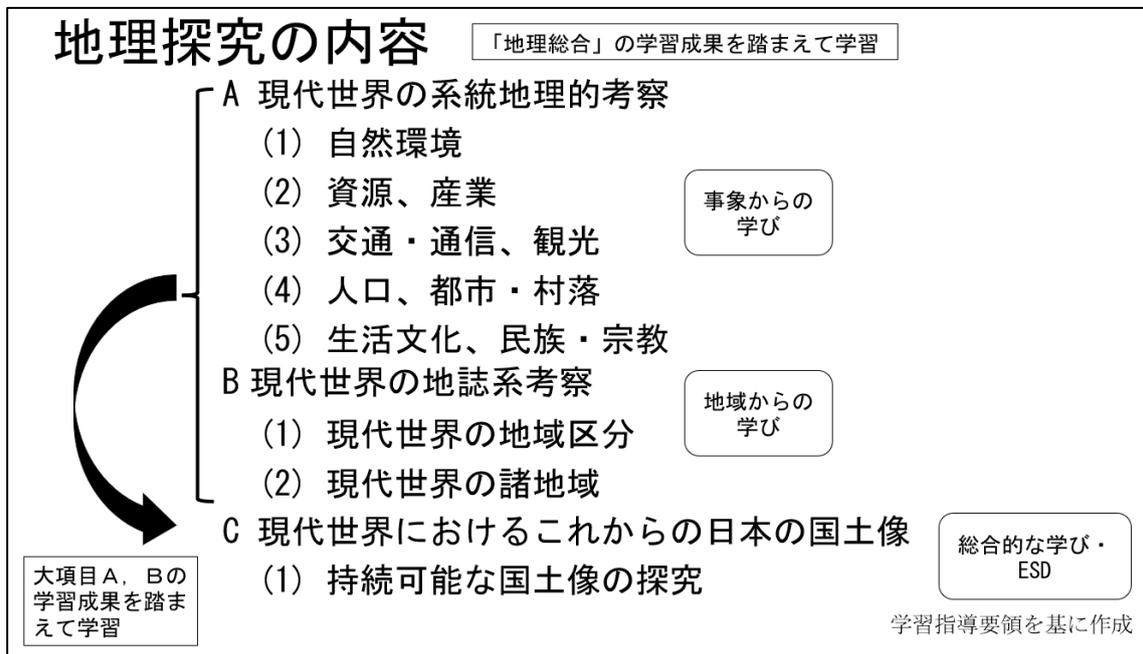


図2 地理探究の内容（学習指導要領を基に作成）

この大項目は、現代世界における日本の国土を主な学習対象とし、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な国土像を探究することを主なねらいとしている。さらにこの項目を取り扱う際には「それぞれの課題が相互に関連し合うとともに、

それらの現状や要因の分析、解決の方向性については、複数の立場や意見があることに留意する（内容の取扱い）については、取り扱う諸課題を一面的に捉えるのではなく、課題解決のためにどのような議論や取組が行われているかなどについて把握し、様々な立場から考察することができるようにすること」とされている。

このように地理総合、地理探究ともに持続可能な社会づくりの担い手を育てるための学習指導要領となっているが、現実には厳しさがある。濱川(2020)は、地理総合について「作業的で具体的な体験を伴う学習」「課題を設定し追究する学習」に多くの時間と労力がかかる上、従来のカリキュラムから内容の削減もないため、学習指導要領の目指す理想の通り実践することができるか疑問視している。

そこで、今回は、できるだけ効率的に最大限の効果を生む探究活動の実践を試みた。さらにもともとSDGsと親和性の高い地理という科目だけでなく、他の科目や他教科でも取り入れられる形を意識した。

（２）具体的な指導展開の流れ

実践は令和6年度11月に本校普通科3年次生の理系選択者を対象に地理探究の授業内で行った。本校は普通科の多くの生徒が4年制大学への進学を希望しており、一般入試を受験する。2年次に普通科全員が地理総合を履修し、3年次には理系及び文系の選択者が地理探究を履修する。地理探究では学習指導要領に基づき4月から系統地理分野、9月頃から地誌分野を学習している。

今回、大項目C「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を実践の単元として設定した。それまでも系統地理的考察・地誌的考察を授業内で取り入れてきたこと踏まえ、全体で4時間とし、実際の作業は2時間での展開とした。その効果を高めるため、SDGsの「誰一人取り残さない持続可能な発展」という目標を利用し、探究の結果自分で考えた解決策をSDGsの視点を通して見直す作業を盛り込んだ。以下に具体的な指導展開の流れを記述する。

ア 単元名 日本の地理的諸課題の探究

イ 内容のまとめり C 現代世界におけるこれからの日本の国土像（1）
持続可能な国土像の探究

ウ 単元の目標

- ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。
- ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的

に探究し、表現する。

・日本の地理的諸課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。</p>	<p>・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。</p>	<p>・日本の地理的諸課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

オ 指導と評価の計画（4時間）

本事例では、内容のまとまりである中項目「持続可能な国土像の探究」を、「日本の地理的諸課題の探究」として一つの単元とし、その中項目全体の指導計画の概要とともに、単元「日本の地理的諸課題の探究」の指導と評価の計画を次に示すこととする。

内容のまとまり	小単元	各次の内容と配当時間例
<p>C(1) 持続可能な国土像の探究 (4時間)</p>	<p>①日本の地理的諸課題の探究 (4時間)</p>	<p>導入 2050年の日本の姿(1時間) 第一次 日本の地理的諸課題の探究(2時間) まとめ 探究活動の振り返り(1時間)</p>

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	ねらい・学習活動	知	思	態	評価基準等
導入 (1時間扱)	<p>【ねらい】日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。</p> <p>【学習課題；単元全体に関わる問い】「日本の地球的課題を解決するための策は何か」(中項目前段の単元までのすべての学習を踏まえて)</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を取り巻く現状とともに地理的諸課題を整理し、その探究の手順を理解する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> ●日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。
第一次 (2時間扱)	<p>【ねらい】持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の4つのテーマのうち一つ選び課題を整理し、その解決案を考察する。 ・SDGsの視点を持ち他者と意見交換する。 ・他者からの意見やSDGsの視点から自分の案を見直し、改善する。 	○		●	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りから、仮説の検証に必要な情報を収集し、適切にまとめている。 ●持続可能な社会づくりのため多面的・多角的に仮説を検証している。 ○持続可能性に注目しながら諸課題の解決の方向性を多面的・多角的に探究し、表現している。
単元	<p>【ねらい】日本の地理的諸課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> ・考え直した案をグループで発表する。 ・これまでの学習活動を基に、地理的諸課題解決において大切なことを考察し、ワークシートにまとめる。 	○	●	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えを適切に表現している。 ○現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。 ○現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。 ○日本の地理的諸課題について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
--	--	---	---	---

カ 第1次

【導入】

- ・教科書の4つのテーマを確認し日本の諸課題を整理する。

【展開】★…SDGsの視点を取り入れた学習活動

- 4つのテーマから一つを選び、解決策を考える。
- ・テーマに関連する身近な地域の課題を整理する。
- ・身近な地域の課題の解決策を考える。
- ・課題についてタブレット等で調べても良いが、解決策をそのまま採用しない。
- 近くの人と意見交換する。
- ・それぞれが考えた案を発表する。
- 教科書に記載されているテーマごとに関連するSDGsの項目に注目し、達

成できていない項目がないか確認する。・・・★

○必要に応じてSDGsの17項目すべてに目を通し、誰か(自然や動物も含む)に我慢を強いるものになっていないか確認する。・・・★

○再度自分の考えた案を考え直す。

・適宜相談しながら案を考え直す。

・一部にのみ負担をかけないようにし、皆に利益があるような持続可能な案になるにする。

・課題を自分事としてとらえ、自分も進んで参加する取組になるようにする。

【まとめ】

○日本の地理的諸課題の解決の方向性やこれからのあり方などを考えることの重要性や、探究する手法などについて理解することができたか。

○持続可能な社会づくりなどに着目して、日本の地理的諸課題の解決の方向性やこれからの在り方などを多面的・多角的に探究することができたか。

○考え直す作業で自分の考えた案は変わったか。またその理由は何か。

○これからの日本の課題を考えていくうえでどんなことが大切だと思うか。

○これからの日本の課題にどのように関わっていききたいと思うか。

○SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わると思えますか。最も近いものを「とても良くなる・少し良くなる・変わらない・やや悪くなる・とても悪くなる」の中から選択する。

地理探究プリント 現代日本に求められる国土像	3年 組() _____	4. 他の人からの意見やSDGsの目標を踏まえて再度自分の案を考え直してみよう
目標		
①日本の地理的諸課題の解決の方向性やこれからのあり方などを考えることの重要性や、探究する手法などについて理解する。		
②持続可能な社会づくりなどに着目して、日本の地理的諸課題の解決の方向性やこれからの在り方などを多面的・多角的に探究する。		
1. 教科書 p.296～p.303 の4つの課題の中から最も興味を持ったもの一つをばら		5. まとめと振り返り
選んだテーマ テーマ() 「 _____ 」		(1)目標①の達成状況 ☆☆☆☆☆
2. 教科書を読んで自分の身近な地域の課題を整理し、その解決策を考えてみよう		(2)目標②の達成状況 ☆☆☆☆☆
課題 _____		(3)4番の作業で自分の考えた案は変わりましたが 変わった ・ 変わらなかった
		(4)その理由を簡潔に教えてください
解決策 _____		(5)これからの日本の課題を考えていくうえでどんなことが大切だと思いますか
3. 近くの席の人に自分が考えた案を発表し、意見をもらおう		(6)これからの日本の課題にどのように関わっていききたいと思えますか
意見を述べる人は、複数のSDGsを達成できているかに注目しよう		
意見をメモしよう		(7)SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わると思えますか。最も近いものに○をつけてください。
		とても良くなる ・ 少し良くなる ・ 変わらない ・ やや悪くなる ・ とても悪くなる

参考資料：授業プリント(筆者作成)

(3) 授業の実際

ア 展開を通しての考えの変化

授業を実施し振り返りまで提出した生徒は 111 名であった。作業を通して自分の考えた解決策は変わったかという問いに対して、「変わった」と回答した生徒は 79 名 (71%)、変わらなかったと回答した生徒は 32 名 (29%) であった。

イ 「変わった」と回答した生徒の主な記述例(すべて原文ママ)

・「人口減少社会を活性化するためには」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

市民の注目や関心を集めるような店を増やす。子供が入りやすい店も取り入れて治安をよくする取り組みを行う。

②SDGsの視点を通して見直した後の解決策

広場で子供などが興味をもつようなイベントを開催する。シャッターが閉まっている店などは個人で経営するカフェなどにリニューアルすることで商店街らしさを残す。全体的に景観が暗めであるため、昔ながらの景観を残しつつ手を加える。

③変化した理由

他の人の視点から考えたことで、具体的な案を思い付いたから。

・「産業の変化と持続可能な成長」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

国が積極的に経済的な支援を行って従事者の負担を軽減したり、若い人たちが農業に触れる機会を増やして若者の参入を狙う。

②SDGsの視点を通して見直した後の解決策

環境にかかる負担が少なくなるような支援も大事だと思う。廃棄されるものを減らす。

③変化した理由

案の根本は変わらなかったけど、違う観点からの解決策を付け足した。

・「自然災害に強い国土を目指すには」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

氾濫を起りにくくするために川幅を広げる。土砂災害を起りにくくするために、山に植林などして地盤を強化する。

②SDGsの視点を通して見直した後の解決策

(もともと考えていた案に加え)安全で素早い非難ができるよう事前にシミ

ュレーションする(例:高齢者と一緒に避難ルートのウォークラリー)。実際に災害が起こる前に早めに安全な避難をする。避難ルートへの道を改善する。

③変化した理由

災害が起こる前での対策も大切だと気づいたから。

・「自然災害に強い国土を目指すには」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

防災リュックを準備しておく。家族と避難経路を確認しておく。自分の名前・住所・電話番号などが書いてあるものを用意しておく。

②SDGsの視点を通して見直した後の解決策

(防災リュックを準備しておくことに対し)食品などは賞味期限などの確認をし、期限が近付いてきたものは食べて廃棄しないようにする。→12つくる責任、つかう責任

③変化した理由

友達から他のSDGsを見て意見をもらったから。

ウ 「変わらなかった」と回答した生徒の記述例(すべて原文ママ)

・「人口減少社会を活性化するためには」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

働き方の多様化によって、若年層の移住をうながす。都市をコンパクト化し、市役所や町役場に自治体の管理を任せる。若者と高齢者がコミュニケーションをとれる機会をつくる。

・「人口減少社会を活性化するためには」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

町おこしをしたり、後見人をつくったりして若者の人口を少しずつ増やす。

・「多文化共生社会の実現をめざして」を選んだ生徒の記載内容

①自分一人で考えた解決策

各テーブルにおはしだけでなくスプーンやフォークを置いてみたり、肉の代わりに大豆を用いた食品やハラルフードを使う。

・「多文化共生社会の実現をめざして」を選んだ生徒の記載内容

①自分で考えた解決策

どんな目的での来日か、地域でのルールをお互いに理解しあうための機会をつくる。近隣の店で雇用を寛容にする。

エ 「これからの日本の課題を考えていくうえでどんなことが大切だと思いますか」に対しての記述例(すべて原文ママ)

- ・ 解決策を考えるときに一部の人のみが利益を得ることを防ぎ、なるべく全体が利益を得られるようなものを選ぶこと。
- ・ 様々な情報の正確性を確かめながら、多角的に考える。自分の意見をきちんと持つ。「誰も取り残さない」ということを考えること。
- ・ 現状を知った上で、この先どうすれば問題が解決できるのかをまずは自分の立場から想像してみても考え、他の人の考えも取り入れる。
- ・ 急に大きな解決策を考えるのではなく、達成できそうなことから始める。
- ・ 特定の誰かだけが頑張るのでなく、みんなで考えて、実行していくことが大切だと思います。
- ・ 自分たちが住んでる国でも自分も含めて、今の現状を把握していることが少ないから、まずは知ることに加え、多面的にとらえる。
- ・ 選挙に行くこと。

オ 「SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わるとお考えですか」の結果

図3の通り、とても良くなる44名(40%)、少し良くなる59名(53%)、変わらない6名(5%)、やや悪くなる1名(1%)、悪くなる1名(1%)となり、「とても良くなる」もしくは「少し良くなる」と答えた者が9割を超えた。

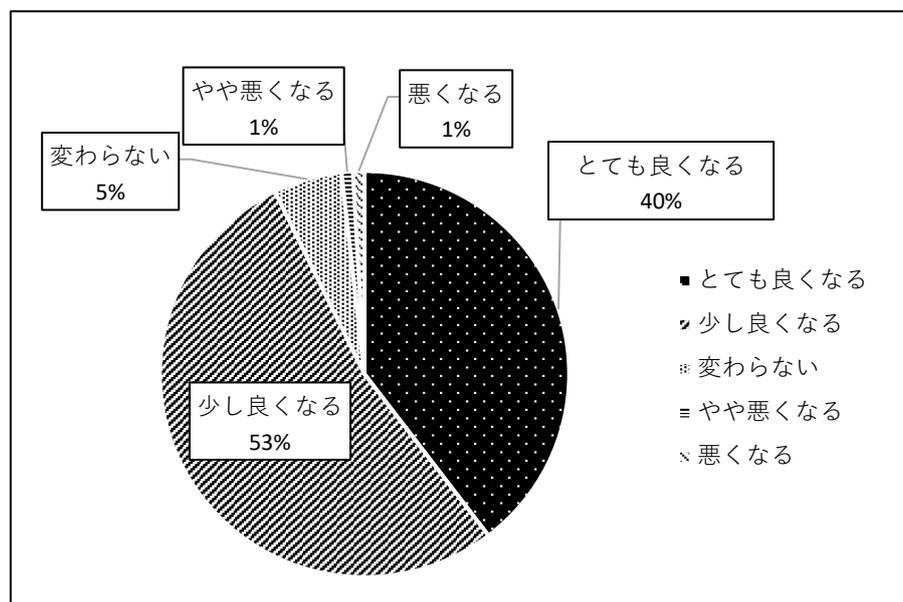


図3 SDGsに取り組むことで地球の未来はどう変わるとお考えですか
(授業プリント内のアンケートを基に作成)

(4) 実践の結果

SDGsの視点を通じた学習活動を行うことにより、7割を超える生徒に意見の変化が見られた。変化した意見を見ると、自分一人で考えた解決策よりさ

らに具体的になる事例が多かった。また、違う視点から捉えなおすことで解決策の問題点が修正される事例も多くみられた。一方で意見の変化がなかった生徒としては、「人口減少社会を活性化するためには」や「多文化共生社会の実現をめざして」などを選択した者が多かった。意見を求めた友人たちも接する機会の少ない課題であり、個人の範囲でできる解決策を超えた、社会的な取り組みしか思いつかない事例が多かった。

3 実践②SDGsの視点を取り入れた進路に関する学習活動

(1) 緒言

中間発表前の調査において、SDGsに対する解像度が高い生徒は、様々な分野に興味を持っており、生徒自身が関わっていききたいSDGsの目標について、より多くの分野を挙げていることがわかった。そのため、生徒自身のSDGsについての知識を増やすことと、それについて学ぶことで、将来の選択肢を広げることができる。

一方で、筆者の勤務校においては、生徒が高校入学時に考えていた希望進路に固執しすぎていて、興味を持つ学問分野の幅が狭いことに課題がある。また、併せて大学の学問分野についても自分が興味を持っているものだけしか知らず、受動的で自ら選択肢を増やそうとしないことが多い。そのため学校として、進路を調べる機会を多くするように設定している。

この点を踏まえて、SDGsの各項目の内容と、大学の学問分野をそれぞれ研究させ、それらの関連を生徒自身が知ることによって、視野が広がり主体的に進路について考えることができ、選択肢を増やすことができるのではないかと考えた。

また、SDGs教育を活かした探究活動の実践は、様々な場面で行われているが、SDGsと進路指導をつなげた実践が少ないこともあり、これについて実践することにした。

(2) 現状について

中間発表前に、SDGsの17の各目標についての理解度の状況を調べるためにアンケート調査を行った。各ターゲットについての自己認識を、それぞれ以下の選択肢から選んでもらった。

- | | |
|---|------------------------------------|
| A | これがSDGsの目標に入っていて、どのような課題があるかも知っている |
| B | これがSDGsの目標に入っていることを知っている |
| C | このテーマがあるということを見たり聞いたりしたことがある |
| D | このテーマについて、今初めて知った |

次のページにある表1は各目標におけるA～Dの割合を示したものである。また併せて、A～DをA：5、B：3、C：1、D：0と数値化し、各目標での平均を求めることで、目標ごとに良く知られているものと、そうでないものの傾向を見た。

また、回答者ごとに平均値を算出し、その回答者の「理解度」とした。理解度の分布を割合で示したものが表2であり、全体の平均が3.3であった。

これと同じ調査を勤務校1年生に実施した(7月)結果が表3および表4である。「理解度」の平均は3.1であった。

表1 SDGsの17の各目標についての理解度（中間発表時に全県下で調査したもの、n=1482、数値は%）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困	飢餓	健康福祉	教育	ジェンダー	水とトイレ	エネルギー	経済成長	産業技術	人々の国の不平等	まちづくり	作る使う責任	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和公正	パートナーシップ
D	2.2	2.0	3.1	3.0	2.8	2.8	4.5	8.5	9.7	2.4	4.9	7.0	6.3	3.0	4.9	3.1	7.8
C	7.8	8.4	11.9	10.1	7.8	11.9	14.7	17.4	18.6	10.4	14.1	15.0	14.9	10.5	11.9	10.6	16.3
B	48.5	47.6	56.8	49.0	43.1	48.3	55.0	54.4	55.1	48.7	52.9	48.7	46.0	45.1	49.9	53.6	53.4
A	41.5	42.0	28.2	37.9	46.4	37.0	25.8	19.7	16.6	38.5	28.1	29.3	32.7	41.4	33.3	32.7	22.5
平均	3.6	3.6	3.2	3.5	3.7	3.4	3.1	2.8	2.7	3.5	3.1	3.1	3.2	3.5	3.3	3.3	2.9

表2 SDGsの17の各目標についての理解度（中間発表時に全県下で調査したもの、n=1482）

理解度	人数
≦1	86
1<, ≦2	113
2<, ≦3	506
3<, ≦4	358
4<	419

表3 SDGsの17の各目標についての理解度（勤務校1年生徒対象、7月調査 n=181、数値は%）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困	飢餓	健康福祉	教育	ジェンダー	水とトイレ	エネルギー	経済成長	産業技術	人々の国の不平等	まちづくり	作る使う責任	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和公正	パートナーシップ
D	1.1	1.1	1.7	3.3	4.4	2.8	5.0	9.4	9.9	3.3	4.4	5.0	6.1	1.7	3.3	3.3	7.7
C	5.5	6.1	13.3	11.0	11.0	8.8	18.8	18.8	21.0	8.3	9.9	12.7	13.3	8.8	11.0	9.4	14.9
B	58.6	56.9	67.4	53.0	48.1	56.9	60.2	63.5	63.0	58.0	68.0	61.3	57.5	50.3	55.2	60.2	68.5
A	34.8	35.9	17.7	32.6	36.5	31.5	16.0	8.3	6.1	30.4	17.7	21.0	23.2	39.2	30.4	27.1	8.8
平均	3.6	3.6	3.0	3.3	3.4	3.4	2.8	2.5	2.4	3.3	3.0	3.0	3.0	3.6	3.3	3.3	2.6

表4 SDGsの17の各目標についての理解度（勤務校1年生徒対象、7月調査 n=181）

理解度	人数
≦1	86
1<, ≦2	113
2<, ≦3	506
3<, ≦4	358
4<	419

「理解度」の平均は前回調査よりやや低い。これは1年生に限定して調査しているためと考えられる。

また、中間発表前の調査では「次のSDGsの目標の中で、あなたが将来特に関わっていききたいと思う目標を選んで、チェックして下さい。最大3つまでにして下さい。」という質問をしている。これを「理解度」の状況と合わせてクロス集計したものが表5である。「理解度」が高い回答者は、関わっていききたいと思う目標を多く答える傾向があり、SDGsを理解することによって、将来の目標が明確化し、主体的に行動できるようになるのではないかと考えられる。

今回、同じ調査を本校1年生に実施した結果が表6である。

勤務校における調査でも同様に、「理解度」が高い回答者の方が、より多くの目標についてかかわっていききたいと考えている傾向がみられた。また、調査対象者が1年生ということもあり、1人あたりの希望分野数の平均は2.44と、全体調査の2.67を下回っている。この点からも、SDGsをよく知り、自分の目標とすることが有意義であると考えられる。

特徴的なのは回答者のうち36.5%が「健康福祉」に関わっていききたいと考えている点であり、全県下の調査の1.5倍となっていることだ。本校では医療系の仕事に就くことを希望している生徒が多い。これは、彼らの身近な実体験などから医療に関する仕事に何となくの憧れを持ったままになっていると考えられる。身近なところから将来の目標を作ることは良いのだが、それで満足してしまってそれ以外の世界を積極的に見ようとしないことが、本校の課題となっている。そのためにも、SDGsという新しい視座を意識させることが、現状の改善に役立つと思われる。

表5 将来関わっていききたい、SDGsの17の各目標と理解度の関係（全県下で調査したもの、n=1482、数値は%）

	1 貧困	2 飢餓	3 健康福祉	4 教育	5 ジェンダー	6 水とトイレ	7 エネルギー	8 経済成長	9 産業技術	10 人国の不平等	11 まちづくり	12 作る使う責任	13 気候変動	14 海の豊かさ	15 陸の豊かさ	16 平和公正	17 パートナーシップ
≦1	25.6	26.7	19.8	15.1	25.6	18.6	2.3	10.5	4.7	14.0	19.8	5.8	9.3	14.0	9.3	20.9	5.8
1<, ≦2	25.7	23.0	27.4	10.6	15.9	15.0	7.1	16.8	3.5	18.6	24.8	8.0	8.8	16.8	8.8	21.2	6.2
2<, ≦3	23.7	20.9	23.7	14.0	28.9	14.2	7.3	16.0	3.8	21.7	19.8	11.1	7.5	15.4	8.9	23.7	3.8
3<, ≦4	22.1	20.4	22.9	19.0	33.2	11.2	7.3	14.2	5.3	22.1	18.2	11.5	11.2	16.5	8.7	20.7	4.7
4<	25.3	23.9	27.0	14.3	30.1	12.2	9.1	14.3	5.0	19.6	17.4	10.3	11.0	16.2	9.8	21.7	6.2
平均	24.0	22.1	24.5	15.1	29.1	13.2	7.5	14.8	4.5	20.5	19.1	10.4	9.6	15.9	9.1	22.1	5.0

表6 将来関わっていききたい、SDGsの17の各目標と理解度の関係（勤務校1年、7月調査 n=181、数値は%）

	1 貧困	2 飢餓	3 健康福祉	4 教育	5 ジェンダー	6 水とトイレ	7 エネルギー	8 経済成長	9 産業技術	10 人国の不平等	11 まちづくり	12 作る使う責任	13 気候変動	14 海の豊かさ	15 陸の豊かさ	16 平和公正	17 パートナーシップ
≦1	11.1	0.0	22.2	33.3	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
1<, ≦2	21.4	21.4	14.3	21.4	7.1	14.3	7.1	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	28.6	7.1
2<, ≦3	14.5	13.2	43.4	13.2	18.4	9.2	5.3	15.8	5.3	17.1	19.7	15.8	7.9	11.8	5.3	15.8	5.3
3<, ≦4	17.6	21.6	37.3	15.7	35.3	2.0	9.8	7.8	0.0	29.4	11.8	3.9	5.9	15.7	7.8	29.4	5.9
4<	16.1	22.6	32.3	16.1	25.8	3.2	0.0	12.9	3.2	29.0	16.1	32.3	6.5	9.7	3.2	29.0	6.5
平均	16.0	17.1	36.5	16.0	23.2	6.6	6.1	13.8	3.9	22.1	16.6	13.8	6.1	12.7	5.5	22.1	5.5

(3) 実践

進路にかかわる学習として、総合学科である本校では必履修科目である「産業社会と人間」内で実践を行った。総合学科でない場合、ホームルームや総合的な探究の時間に行うのが妥当と考えられる。

令和7年度7月に1年生のクラスで実施した。1年次1学期の「産業社会と人間」では、自分の興味・関心について調べるとともに、社会にどのような仕事があるかなどを学んでいる。SDGsについては少し触れているという状態である。

対象クラスは1年6組とした。このクラスは大学進学希望者が多い。

ア 本時の目標

- ・SDGsの17の各目標についての確認
- ・SDGsの「ターゲット」を知ることと、ターゲットにどんなものがあるか調べ、興味を持つこと。
- ・自分が希望している大学の学部・系統で学ぶことができる内容を調べるとともに、関連がある目標・ターゲットを考える。

イ 展開

学習場面	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	(個人) SDGsの17の目標を確認する。	タブレットを使用。Teamsを用い、前もって作成しておいた授業チームに参加させる。授業チーム内に掲載した目標が書かれたpdfをダウンロードでさせる。*1
展開① (10分)	(個人) SDGsの169のターゲットについて知る。指示されたサイト内をよく見て、興味があるターゲットをチェックする。	ターゲットについての説明を行う。Teamsを使用してリンクを共有し、SDGsのターゲットを解説しているウェブページなどを閲覧させる。特に興味がある目標のターゲットを見るように助言する。また、自身の希望する学部・系統とは関係がなさそうな目標のターゲットにも興味を持てる内容があることがある、ということを伝えながら机間巡視を行い、アドバイスを行う。

<p>展開② (25分)</p>	<p>興味がある学部・系統別のグループに分かれる。 (グループ)</p> <p>資料を用いて、学部・系統で学ぶことができる内容を調べる。</p> <p>学べる内容と、関連があるSDGs目標を記録する。</p>	<p>事前に興味がある学部・系統の調査を行い、3～5人程度のグループができるように学部・系統を分けておく。1人グループにならないよう配慮する。</p> <p>グループごとに記録用紙と、学部・学科および系統ごとにどのようなことを学ぶのか、研究するかを示した冊子を配布する。</p> <p>担当している学部・系統と関係があるものを記録するように言葉掛けを行う。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>(グループ)</p> <p>新たに興味を持った目標について記録する。</p> <p>記録用紙を提出する。</p>	<p>新しく興味を持った分野を、より深く調べるよう助言を行う。</p> <p>(記録用紙の回収)</p>

ウ 結果

各グループにおいて、SDGsの目標やターゲットに関する知識と、大学での学びが結びついて、大学での学びがより明確化された様子が見て取れる。以下に記録用紙を提示する。

チーム 社会福祉 メンバー 学部

1. 以下のSDGsのターゲットのうち、この学部で学べる内容と関係があるものをチェックしよう。
関係がある内容については、詳しい内容を書き加えてください。
特に「意外だ!」というものについては◎で囲んでください。

- ① 貧困をなくそう — 「おめでとう」から「おめでとう」
- ② 飢餓をゼロに — 労働給金を支援
- ③ すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧ 働きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

2. 以前は興味があつたけれど、新しく興味を持つことができたSDGsのターゲットがあれば、番号を書いてください。

6, 8

チーム 理工 メンバー 学部

1. 以下のSDGsのターゲットのうち、この学部で学べる内容と関係があるものをチェックしよう。
関係がある内容については、詳しい内容を書き加えてください。
特に「意外だ!」というものについては◎で囲んでください。

- ① 貧困をなくそう — 情報技術の発展
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに — 理工学の専攻科を専攻する
5. ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に — 水道の管理
- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに — 最先端エネルギーの作成
- ⑧ 働きがいも経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

2. 以前は興味があつたけれど、新しく興味を持つことができたSDGsのターゲットがあれば、番号を書いてください。

チーム	メンバー
体育・健康	学部

1. 以下の SDGs のターゲットのうち、この学部で学べる内容と関係があるものをチェックしよう。
関係がある内容については、詳しい内容を書き加えてください。
特に「意外だ!」というものについては◎で囲んでください。

- 貧困をなくそう
- 飢餓をゼロに 栄養のしめした食事
- すべての人に健康と福祉を 運動・スポーツを通して生涯健康に
- 質の高い教育をみんなに 学校教育を通して健康について教える
- ジェンダー平等を実現しよう
- 安全な水とトイレを世界中に
- エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 働きがいも経済成長も
- 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 人や国の不平等をなくそう
- 住み続けられるまちづくりを
- つくる責任 つかう責任
- 気候変動に具体的な対策を
- 海の豊かさを守ろう
- 陸の豊かさを守ろう
- 平和と公正をすべての人に
- パートナーシップで目標を達成しよう

2. 以前は興味があつたけれど、新しく興味を持つことができた SDGs のターゲットがあれば、番号を書いてください。

2

4 成果と今後の課題・おわりに

本研究における SDGs の視点を取り入れた学習活動は、短時間の実践でありながら、教育的効果を一定程度確認することができた。特に、課題解決型の探究活動においては、複数の立場や視点を踏まえた思考が促されることが重要であり、SDGs の理念を活用することで、生徒の視野を広げる契機となった。

地理探究の授業では、生徒の約 7 割が自身の意見を再構築するに至り、より具体的かつ多面的な解決策を提示する傾向が見られた。これは、SDGs の視点を通じて他者の意見や社会的背景を考慮する力が育まれた結果と考えられる。一方で、課題が広範かつ複雑であるがゆえに、自分たちにできないと感じ、思考を停止する生徒も見受けられた。これは、地域課題が社会全体の構造的課題と密接に関連していることを示しており、教育的支援の在り方を再考する必要がある。

進路指導においては、SDGs のターゲットと大学の学問分野を関連付けることで、生徒の学問への関心を喚起し、進路選択の幅を広げる効果が確認された。特に、SDGs の理解度が高い生徒ほど、将来関わりたい分野を多様に挙げる傾向があり、主体的な進路形成に資することが示唆された。

今後の課題としては、探究活動の時間的確保と、教員による適切な支援体制の構築が挙げられる。また、SDGs に対する理解を深めるための継続的な教育機会の提供が不可欠である。これらの取り組みにより、教科横断的かつ実践的な学びを通じて、生徒が持続可能な社会の担い手として成長することが期待される。

第5部 特別支援学校におけるSDGsの視点からの学習活動の実践例

1 はじめに

本研究部会では、令和5(2023)年に県内の特別支援学校及び教師、児童生徒に対して、SDGsに関するアンケートを実施した。そのアンケートを集計したところ、以下のことが分かった。

- ①児童生徒はSDGsという言葉を知っている。
- ②自分たちの活動が「SDGsに関する取組」という認識をしていないが、やるべき取組として行っている。
- ③SDGsに関する取組を行うことで、地球の未来は良くなると考えている。

以上のアンケート結果から、SDGsの概念から学習を始めるのではなく、普段行っている活動がSDGsの取組であるということを教師が説明し、活動とSDGsという言葉結び付け、児童生徒自身が「これからの地球を良くするためには、今自分がやっている活動、やろうとしている活動は大切である。」「これからも続けよう!」という意識をもつことにより、主体的に取り組めるのではないかと考察した。

そこで、どのようなSDGsに関する取組を授業の中に取り上げると効果的かということについて検討した。アンケート結果では、ごみ拾いをしていると答えた児童生徒の割合が高いのに対し、奉仕活動等の設定した場面以外でごみ拾いや清掃をする児童生徒は少なく、日常生活の中で主体的に行動する様子が見られない現状に着目した。児童生徒自身が「やっている」と自覚しているごみ拾いや清掃という環境に関する活動を題材にし、SDGsと結び付けることで、SDGsを身近なものと捉えられるようにしたい。そして、環境問題を知ること、自分にもできる活動があることや自分がやっている取組が大切であることが分かり、続けていきたいという主体的な行動を育成することをねらいとして、授業を計画し実践を行った。授業内容は以下のとおりである。

教科等名	生活単元学習
単元名	「環境のためにできるSDGsの取組を考えよう」
単元目標	①SDGsの取組を知り、環境のためにできることを実践することができる。 (知識・技能) ②環境のためにできることを考え、教師や友達に伝えることができる。 (思考・判断・表現) ③自ら進んで活動したり、教師や友達と協力して取り組んだりしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

今回の授業実践は、知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校の小学部と高等部で行った。発達段階や実態は異なるが、「普段行っている活動とSDGsを結び付け、その活動の主体的な行動を育成する。」という、児童生徒の目指す姿は同じであるため、統一の単元目標とした。以下に示す題材について、発達段階や実態に合わせて、学習内容を工夫しながら授業実践を行った。

題材	時数	主な学習内容
①校舎内をきれいにしよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内のごみ拾いや清掃（廊下・教室）をする。 ・SDGsに関する教材（絵本やすごろく、ダンス等）に触れる。 ・環境問題やSDGsについて話を聞き、自分たちが行っている活動はSDGsの取組であることを知る。
②学校周辺をきれいにしよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題やSDGsについて振り返る。 ・SDGsに関する教材（絵本やすごろく、ダンス等）に触れ、SDGsの取組を確認する。 ・ごみ拾いや清掃の目的を確認する。 ・学校周辺のごみを拾う。
③身の回りをきれいにする方法を知ろう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や写真を見て、ごみ拾いの様子を振り返る。 ・ごみに気付けたか、主体的に拾えたかを振り返る。 ・身の回りをきれいにする大切さについて確認する。
④自分にできることを考えよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関するクイズをする。 ・環境のために自分たちができることを考える。 ・考えたことを発表する。

児童生徒が主体的に行動する力を育むためには、授業で説明を聞いたり活動したりするだけでなく、日常生活の中で繰り返し活動する時間が大切であると考えた。それにより、題材②「学校周辺をきれいにしよう」と題材③「身の回りをきれいにする方法を知ろう」の間に、授業時数以外で「きれいな街を目指そう」という時間を設定し、ごみ拾いや清掃に取り組むようにした。

2 具体的な指導展開①【知的障害特別支援学校 高等部 通常の学級課程 2】

(1) 学習者（生徒）の実態

- ・対象生徒は高等部3年通常の学級課程2の生徒7名。自閉症を伴っている生徒も多い。
- ・生活経験が少なく、様々な場面において、教師の助けを待ったり不安から消極的な様子が見られたりすることがある。

(2) 単元の構想

学習者の興味・関心 (生徒観)	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下などにごみが落ちていたり、汚れていたりしても、気にせずに活動していることが多いが、日課の中に定められた活動や自分の役割として認識した活動では、意欲をもって清掃に取り組むことができる。 ・学習としての美化活動と生活の場をきれいに保とうとする意識は結び付いていない様子が見られるが、具体物を示したり指差しを受けたりすると、自分からごみに気付いて拾うことができる。
--------------------	--

<p>学習活動・教材 (単元・題材観)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で既に実践している清掃とSDGsを結び付けることで、生徒自身が自分の力で身の回りをきれいにできると認識できるようにしたい。 ・ごみ拾いや清掃、ごみの分別を一例として取り上げ、自分にもできるSDGsの取組があることを知り、SDGsを身近に感じられるようにしたい。
<p>単元の意義・展望 (指導観)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるようにするために、学習の期間や場面を設定し、計画的に進めていく。 ・本単元を学習する前から、学習活動や日常生活の指導の場面でSDGsと関連付ける言葉掛けやごみの分別等の活動を取り入れたり、教室内にSDGs目標や取組に関する掲示をしたりして意欲の喚起を図る。 ・写真で活動を振り返ったり、実際に清掃や正しい方法で処理したごみを提示したりして、生徒たちが取り組んだ成果を視覚的に確認することで、学習への理解を促す。 ・活動を通して、人と関わることのよさに触れ、自分一人ではできないことも、友達や教師と協働することで一緒に活動したり、実践したりできることを経験できるようにする。

(3) 本時の指導

<p>教科等名</p>	<p>生活単元学習 (学級)</p>	
<p>題材名</p>	<p>「身の回りをきれいにする方法を知ろう」(3/4時間目)</p>	
<p>本時の目標</p>	<p>(1) 落ちているごみを拾ったり清掃したりすることで、身の回りをきれいに保てるのが分かる。(知識・技能) (2) 適切にごみを処理して、身の回りをきれいにしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>	
<p>学習内容</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>準備物等 SDGsとの関連</p>
<p>1. 本時の学習内容及び目標について説明を聞く。 2. ごみのある場所、ない場所を比べる。 ① 写真を見比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのスライドを見ることで、学習のつながりが意識できるようにする。 ・それぞれの写真を見てどのように感じるかを表出するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・パソコン ・パワーポイント ・unisefホームページ

<p>②感想を述べる。</p> <p>3. ごみ拾いや清掃活動の振り返りをする。</p> <p>①写真を見て教師の発問に答える。</p> <p>②写真を見て自分の清掃活動の様子を見たり、友達の活動の様子を知ったりする。</p> <p>③活動の前後で教室や屋外がどのように変わったかを発表する。</p> <p>④今までに拾ったごみの量を確認する。</p> <p>4. 友達と床清掃する方法を考え、実践する。</p> <p>5. 身の回りをきれいにする方法について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ方には個人差があり、感じたままを発表するよう促す。 ・生徒が自分の活動を説明しやすくなるように適宜、発問や補足をする。 ・どんなごみが、どこに落ちていたかを確認して振り返る。 ・ごみを拾ったり掃除をしたりするときれいになる、気持ちが良い、環境に良いなど、肯定的なイメージに結び付けられるようにする。 ・ごみ箱からごみ袋を取り出し、一定期間、学級の生徒が集めたごみの量を視覚的に確認する。 ・ほうきやちりとりを必要に応じて使えるように準備する。 ・活動や言葉のやり取りが滞る様子が見られたら、その都度助言する。 ・きれいな空間は気持ちよく過ごせること、友達や教師と協力することで、より簡単に身の回りをきれいにできることに結び付ける。 	<p>写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ箱 ・ほうき ・ちりとり 
---	---	---

(4) 成果と課題

①授業の様子

・日頃の自分たちの清掃の様子や、修学旅行で見学した水族館での海洋ごみによる生物への影響に関する展示を写真で振り返った。自分たちの生活にもSDGsが関係していると感じている様子が見られた。(図1)

・発語がない生徒や自分の考えをうまく表出することが難しい生徒が多いが、山や海、町のごみがある写真とごみがない写真を見比べて、「行きたい場所はどっち。」の問い掛けに対して、ごみがない写真を選択していた。

・なお、ごみがない写真を選択した生徒の中には、授業終了後に、ごみがある山のイラストを指さして、「この山に行って、ごみを拾いたい。」と話す生徒がいた。(図2)



図1 水族館の展示物



図2 山の比較

- ・ごみ箱からごみ袋を出して、全員で集めたごみを教師が提示するのを見て、興味を示していた。
- ・初めは目の前で清掃をする友達を見ているだけの生徒もいたが、徐々にごみを拾い始める生徒も出てきた。
- ・友達への言葉の掛け方を知り、複数人で協働して清掃した。(図3)
- ・友達が自分から行動したり、言葉掛けをしたりしている様子を見て、模倣する生徒が出てきた。



図3 友達と協力して
教室を清掃する様子

②授業以外の様子

- ・机を運ぶ際に、友達と一緒に机の両端を持って運ぶ行動が見られるようになった。
- ・清掃の際に、ほうきを使っている生徒を見て、ちりとりを準備する生徒がいた。
- ・清掃では、以前は、特別教室や廊下、担任以外の教師が指導するなど場所や人が変わると主体的な取組が見られることは少なかったが、自分たちが清掃する場面では清掃に対する意識が高まり、責任をもって取り組むことができた。(図4)
- ・ごみ拾いと同様に、場所や人などの条件が限られた環境や場面では自分から取り組むことができた。
- ・教室に空になったペットボトル等が置いてあると学習したことを思い出し、キャップとラベルとボトルに分別する様子が見られた。(図5)



図4 友達と協力して廊下を清掃する様子



図5 資源ごみの分別

- ・SDGsの17の目標について、自分たちができる取組を考え、表を作成した。自分たちが経験してきたことや、学校や家庭での他者とのやり取りから意見を出していた。(図6)



図6 自分たちの学級でできるSDGsの目標とそれぞれの取組

<自分たちの学級でできるSDGs>

目標	生徒が考えた自分たちにできること
1	残さず給食を おいしく食べる。
2	バイキングで取り過ぎない。
3	エコクリーン班(作業班)のペットボトルキャップ集めに協力する。
4	作業や授業を頑張る。
5	相手が呼ばれて嬉しい呼び方で名前を呼ぶ。
6	水を出しすぎない。
7	テレビをつけっぱなしでスマホをしない。
8	卒業後の施設で働くことを頑張る。
9	ルールを守って電車に乗る。
10	みんなが座れるように、長椅子は端から座る。
11	次に使う人がきれいに使えるようにする。
12	バイキングで取りすぎない。
13	ペットボトルではなく、水筒を持って行く。
14	海や川に行ったら自分のごみを持ち帰る。
15	緑を大切にする。
16	必要なルールを守る。
17	みんなと仲良くする。

3 具体的な指導展開②【知的障害特別支援学校 小学部 通常の学級課程 I】

(1) 学習者(児童)の実態

- ・対象児童は小学部5年通常の学級課程Iの児童4名で、自閉症を伴っている生徒もいる。
- ・簡単な言葉での指示を理解して活動することができる。また、自分の意志や要求を言葉で伝えたり、見聞きしたことや経験したことを簡単な言葉で話したりすることができるようになってきている。
- ・教師や友達と言葉でのコミュニケーションを図ることができるが、会話が一方的になったり乱暴な言葉で相手を不快な気持ちにさせたりと、時々トラブルが起こることがある。

(2) 単元の構想

<p>学習者の興味・関心 (児童観)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを授業で扱ったことはない。そのため、どのような行動がSDGsと結び付いているかは分かっていないが、NHKのEテレの「みんなのうた」等、メディアの影響で「SDGs」という言葉を知っている。 ・清掃に関しては、週に1回教室清掃を行い、意欲的に取り組ん
----------------------------	---

	<p>でいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室にごみが落ちていても気にせず生活しており、ごみを見つけたら拾うという行動は見られないが、教師の話聞いて「ごみは拾うもの」ということを理解している。
学習活動・教材 (単元・題材観)	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17ゴールのうち環境に関連しているものが多く、清掃やごみ拾い、分別と言った身近な取組からSDGsにつなげることで、SDGsを身近なものと捉え、自分にもできる取組があることを知り、続けることの大切さに気付けるようにしたい。
単元の意義・展望 (指導観)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラスト、アニメーション等の視覚教材を用い、活動内容を理解して意欲的に取り組めるようにする。 ・友達の意見を聞いたり相談したりする時間を設定し、児童同士が関わり合えるようにする。 ・児童の言動を即時称賛することで、達成感を得られるようにする。 ・身近な場所の清掃やごみ拾い、身近な物の分別を児童の実態に応じて配慮しながら取り入れ、日常生活で主体的に取り組めるようにする。また、リサイクルに関する内容も取り上げることにより、中学部の作業学習で行うアルミ缶のリサイクルや高等部の総合的な探究の時間の「SDGsについて」の学習につなげられるようにする。 ・SDGsに関するクイズやカードを貼るなど、ゲーム的要素や動きのある活動を取り入れることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・教室内にSDGsの目標や取組に関する掲示をして意欲の喚起を図る。

(3) 本時の指導

教科等名	生活単元学習 (学級)	
題材名	「環境のために、自分にできることを考えよう」(4/4時間目)	
本時の目標	<p>(1) SDGsのクイズを通して、環境に関するSDGsの取組が分かる。(知識・技能)</p> <p>(2) 環境のために自分ができるところを選んだり、考えたことを伝えたりすることができる。(思考・判断・表現)</p>	
学習内容	指導上の留意点	準備物等 SDGsとの 関連
1. 本時の学習内容及び目標について説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのスライドを見ることで、学習のつながりが意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・パソコン ・パワーポイント

<p>2. SDGsに関するクイズ</p> <p>①SDGsの取組としてよいものを考え、選ぶ。</p> <p>②理由を答える。</p> <p>③教師の話を聞く。</p> <p>④自分事として考える。 ※①～④を繰り返す。</p> <p>3. 自分にできることを考える。</p> <p>①クイズで取り上げた取組の中で、自分ができるところを考える。</p> <p>②①で選んだ中から特に頑張りたいことを一つ選ぶ。</p> <p>③選んだ取組をワークシートに記入する。</p> <p>4. 「頑張って取り組みたいこと」についてワークシートを見せながら発表する。</p> <p>5. 環境のために、自分ができるところを続けることの大切さを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動がイメージできるように、演技やジェスチャーを交えて説明する。 ・アニメーションや効果音などを活用し、パワーポイントに注目できるようにする。 ・友達や教師と相談してもよいことを伝える。また、教師による仲介や代弁により、児童同士が関わり合えるようにする。 ・考えを深められるように、児童同士の意見を比較したり、友達の意見についてどう考えるかを発問したりする。 ・環境に良い理由が理解できるように、絵や写真を提示しながら解説する。 ・クイズの正誤だけでなく、これまでの取組を振り返ることができるように、具体的な場面を取り上げながら説明する。 ・自分の取組を振り返ったり、考えを整理したりできるように十分に時間をとる。 ・「できること」に関して「誰と」や「いつ」などの発問をし、考えを深められるようにする。 ・発問をしながら一緒に考えることで、児童の実態に合った取組が選べるように支援する。 ・電子黒板にワークシートの記入例を提示することで、視覚的に分かりやすくする。 ・発表の仕方を示範し、大きな声で堂々と発表できるようにする。 ・発表者に拍手をすることで、達成感を得られるようにする。 ・児童が作成したワークシートを提示しながら、一人一人の取組の大切さを伝え、継続して主体的に取り組めるようにする。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・活動カード ・ワークシート ・SDGsシール
--	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ活動を行うとSDGsシールがもらえることを説明し、意欲を高める。 ・SDGsのシールを使用することで、自分が行った活動とSDGsの目標が結びつくようにする。 	
--	--	--

(4) 成果と課題

①授業の様子

- ・教師が設定したごみ拾いや清掃の活動に意欲的に取り組み、「またやりたい。」と話す児童が多かった。
- ・クイズ形式で環境に良い活動を確認することで、楽しみながらSDGsの取組を理解することができていた。(図7、図8、図9、図10)

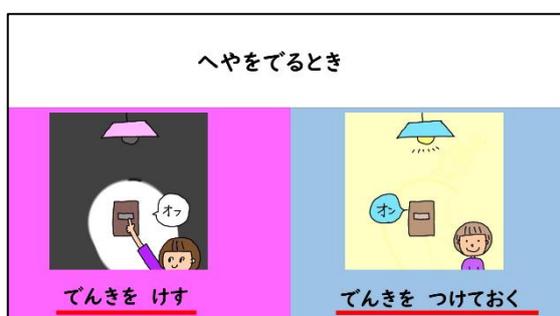


図7 SDGsに関するクイズ例1



図8 SDGsに関するクイズ例2



図9 SDGsに関するクイズ例3



図10 SDGsに関するクイズ例4

・環境に良い理由を発言したり、友達の意見を聞いたりする時間を設けた。自分の考えとは違う考えがあること、環境に良い取組でも自分が取り組むことは難しいことがあることなどが分かり、考えを認め合っている様子が見られた。また、教師の話聞き、状況によって取り組むか否かを判断しなけれ



図11 環境に良いか、自分にできるかを話し合う場面の様子

ばならないことがあること、例えば環境のためであっても危険物や一人で運べない物は拾わないことを教師の話聞いて知ることができた。(図 11)

・SDGs に関する取組によって今ある世界のどのような問題が解決するのかを聞いたり、SDGs に関する絵本の読み聞かせを聞いたりすることで、SDGs の取組が身近になった。(図 12、図 13)

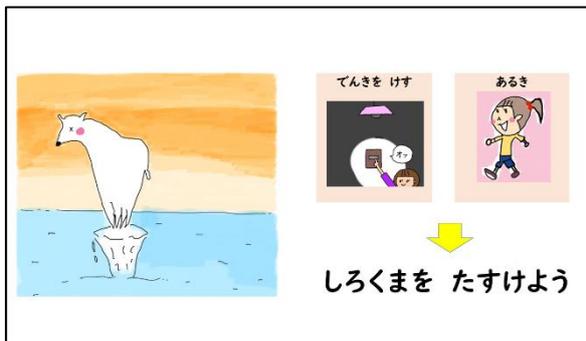


図 12 SDGs に関する取組と環境問題の関係例 1

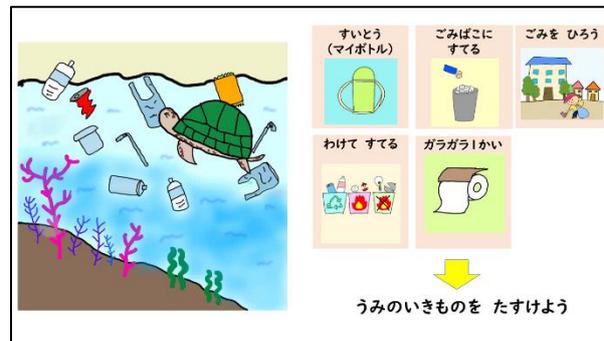


図 13 SDGs に関する取組と環境問題の関係例 2

- ・自分にできることや頑張っ取り組むことを選ぶ場面では、「学校まで遠いから歩くことはできない。」や「電気係だから電気を消すことができる。」などと真剣に理由を考え、説明することができていた。
- ・SDGs シールがもらえることを知り、活動に対する意欲が高まった児童が多かった。
- ・SDGs シールを見て、どの目標の取組かを理解できた。

②授業以外の様子

- ・「シロクマさんが泣いちゃうから電気消すよ。」や「ウミガメが苦しいからごみを拾う。」などと、理由を話しながら主体的に活動をする様子が見られるようになった。
- ・掲示してある活動シートを見てシールの枚数を確認しながら「もっと頑張りたい。」と発言し、SDGs の活動を意識して生活するようになった。
- ・自分が取り組んでいる活動とは別の活動を行うと違うシールがもらえることが分かり、「シールがほしい。」という言葉で他の目標にも取り組みたいという意欲を示す児童がいた。(図 14、図 15)



図 14 「頑張って取り組みたいこと」
ワークシート①

児童が決めた活動ができたなら、SDGs アイコンをシールにしたものを渡した。
児童はワークシートの枠に貼っていった。



図 15 「頑張って取り組みたいこと」
ワークシート②

・友達の行動を称賛したり励ましたりしながら、学級全体が「シロクマさんのため」「ウミガメさんのため」と協力する様子が見られるようになった。

4 まとめと今後の展望

<授業実践から>

対象の児童生徒の実態を踏まえて、新たな活動に取り組むのではなく、「やっている」と自覚しているごみ拾いや清掃を取り上げた。それにより、児童生徒がこれまで経験していた活動と「SDGs」という言葉が結び付き、児童生徒は主体的に取り組むことができた。また、やりがいを感じ、「きれいになって気持ちがいい。」「ありがとうと言われてうれしい。」などの発言から、充実感を味わう様子が見られた。

今後は、今回取り上げたごみ拾いや清掃以外の活動も「SDGs」という言葉と結び付けて、SDGsに関する知識をさらに深められる指導を継続していきたい。そのためには、児童生徒の興味関心を高める工夫や、児童生徒がSDGsの必要性を感じられる工夫をするために、教師自身がSDGsに関する意識を高くもち、知識を深めていけるように学校全体で取り組んでいく必要がある。

今回の授業実践では、知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校において、異なる学部で同じ単元を扱った。児童生徒の実態は異なるものの、教材の提示の方法や指導の際の言葉掛けを変えることで、一人一人の実態に合わせた学習が可能となることが分かった。児童生徒が自分にできることを考え、どのように社会に携われるかを学習することにつながった。また、個人で行うよりも、集団で行うことで成果も大きくなるという気付きがあった。そして、活動を行う意味や有効性について話し合う過程で、友達の考えを知る機会となり、様々な考え方があることや、考え方の視点は異なっても双方が正しい場合もあることを知り、他者を受け入れようとするきっかけにもなった。特に、今回はこれまで行ったことのあるごみ拾いや清掃活動をSDGsの視点で取り上げたが、校外のごみ拾いの活動では、「よく分からない物に触ると危険だから拾わない。」「落ちている物につまずくと危

ないから道をよく見て歩くようにする。」などの捉え方をする児童生徒が多かった。これらは、日常生活の場面で、私たち教師が児童生徒に対して指導を行うことがあり、今回の児童生徒の判断は、安全面の視点では大いに正しい判断である。しかし、ごみ拾いの活動に関しては、「環境のために落ちているごみは拾う」という安全面とは別の視点も併せてもつ必要がある。つまり、児童生徒が取組の中で様々な視点を持ち、その中から正しいものを選択し行動できるように、私たち教師が児童生徒の意見や考えを認めたり、児童生徒同士が意見を尊重できる環境作りをしたりすることが大切である。今回の授業を通して、私たち特別支援学校の研究チームは、児童生徒と共に学び、身近なところから取り組むというESD（持続可能な開発のための教育）の視点も含めてSDGsの教育について考えることができた。

しかし、児童生徒の主体的な取組という点では、限られた条件の中での取組となり、課題も残った。様々な場面を想定し、実践を積み重ねたり、人との関係が広がったりすることで学習効果が身に付きやすくなり、主体的な取組につながっていくと考えられる。

<アンケート結果から>

課題として挙げたのは、児童生徒の経験がない、または少ない活動に関しては興味や関心が低いことである。これは、SDGsの活動に結び付けにくいことにつながるが、生活に基づいた活動に興味や理解はあるということも分かった。繰り返しになるが、自分の身近な事柄に興味や関心をもてるよう、児童生徒の実態や発達段階に応じた指導や教材の工夫が求められる。また、今回の研究からも分かるように、目標を立てて活動に取り組むことで、児童生徒が意欲的かつ主体的に取り組んだり、責任をもって行動したりできるようになる。以上のことから、児童生徒の経験の幅を広げ、それらを「SDGs」と結び付けていくことが私たち教師の役割である。今回、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校での授業実践は行わなかったが、同様のことが言えるのではないだろうか。

また、アンケートの結果では、特別支援学校の児童生徒は「SDGsの取組は、地球の未来を良くする」と回答し、SDGsの取組を肯定的に捉えていた。つまりSDGsの意味を理解しているかは定かではないが、SDGsの取組の大切さや重要性を感じていることが分かった。つまり、より多くの活動がSDGsと結び付き、児童生徒自身が責任をもって行動することで、「地球の未来のため」という大きな影響だけでなく、自分自身の生活を見直すきっかけとなったり、改善しようとする動きにつながったりして、児童生徒の生きやすさに影響してくると思われる。